



対談

ビジネスで地域課題を解決！

本号の特集は、4月1日に本市の誘致企業に認定された有機米デザイン㈱の山中代表と市川市長の対談で、地域における農業課題解決に向けさまざまな可能性を語っていただきました。

市 実は、山中代表と最初にお会いしたのは5年前です。

鶴岡市にキッズドーム「ソライ」がオープンすることを知り、本市が構想する屋内運動施設に子どもたちが楽しめるスペースを設けるにあたって参考にしたいとの思いから、オープン前にもかかわらずアポなしで伺い、そこを運営するヤマガタデザイン㈱の代表としてお会いし、名刺を交換しました。

山 そうでしたね。記憶が蘇ってきました。

市 お会いした際に、子どもたちに対する山中代表の視点に共感したことを強く覚えています。有機米デザイン㈱の前に、ヤマガタデザイン㈱の運営のコン



山中代表 (山)

セプトをお伺いします。
山 有機米デザイン㈱の最大株主がヤマガタデザイン㈱で、私が両方の代表を務めています。どちらの会社も地域課題を解決する事業を作り続けることが根本的な使命と考えています。

まちづくりは、私たち民間が意識を変えて、積極的に参加していかなければならない時代だと思います。国の人口が減少し、地方は人口流出も少子高齢化も激しい中で、行政単体でまちづくりを続けることは、財源を含めさまざまな面でハードルが高くなっています。
「いつか行政がやってくれる」という気持ちでいると、絶対その地域は弱体化し消滅します。



市川市長 (市)

今こそ地域の人々や地域の民間企業・団体が、まちづくりの当事者意識を持たなければならぬと考えています。

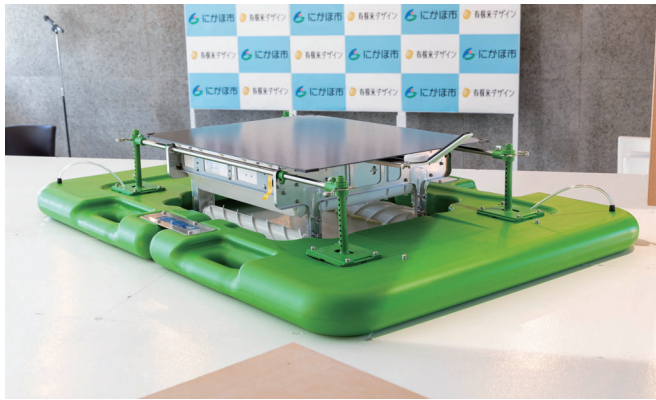
ヤマガタデザイン㈱は2014年に庄内地方を中心に40社を超える民間企業から、「地元のために」という決意で出資いただき設立しました。有機米デザイン㈱もヤマガタデザイン㈱も、「民間が持続可能な利益を生みながら、どのように地域・社会

に貢献していくかを考えていく時代」というのが共通の考えです。

市 根底にあるものが同じで、ビジネスで地域課題を解決したいということですね。有機米デザイン㈱を設立しようとしたきっかけは、どのような理由からでしょうか。

山 農業の課題を解決するには、まず自分たちが農業をやろうと、2019年にヤマガタデザインアグリ㈱という会社を設立しました。当初から戦略は有機農業でしたが、米は初期投資が高いため野菜を始めました。有機農業の可能性を地域の農家に伝えたくて、仲間を募って行政、JAと有機農業のブランド「SHONAI ROOTS」を立ち上げ、地域商社としての取り組みを始めました。仲間を募る際、やはり米の有機栽培は除草が非常に難しいと聞きました。

この除草を解決する有機農薬やロボットがないかと考えていた時に、あるイベントで日産自動車㈱のエンジニアが発表したアイガモロボに出会いました。自らの農業体験とおして現場を把握し、生産者の想いや言葉に耳を傾けて作られた本当に素晴らしいロボットでした。その場で、当時日産自動車㈱



アイガモロボ

のエンジニアだった中村(現有有機米デザイン㈱取締役)に、「これは非常にセンスが良いから商品化して欲しい。完成したら当社が買って地域の農家に貸し出しをする」と申し出たのですが、日産自動車㈱では商品化する予定は無く、中村を中心とした有志メンバーが全くのボランティアとして開発を行っていました。そして2018年の秋、当時中村の同僚で、有志メンバーの一人だった塩路(現有有機米デザイン㈱社員)から「御社でロボ開発を続けられないか」と相談を受け引き受けたのが始まりです。後に中村も合流し、2人を

中心に実証と実験を重ねて開発を進めました。

一方で、ロボット販売だけをビジネスにすると、トラクターのように販売額が高額になるため、農家の目線に立ったマーケットになるよう価格設定を極力下げ、ロボット以外の複合的なキャッシュポイント(収益が生まれる機会)を作ろうと知恵を絞りました。結果、有機肥料や

資材の開発、販売も行いつつ、アイガモロボを使って有機米を栽培してもらい、最終的に収穫した米を買い取り販売させてもらうという、「ロボ開発」に「流通・販売」サービスを追加したことにより付加価値のある事業になったと思います。

有機米デザイン が目指すもの

にかほ市×有機米デザイン株式会社